

特集 中央区歴史探訪 ぶらり地名めぐり

皆さんの住んでいる土地の名前の由来をご存じですか？
地名の由来を知ることによって、その土地に住んでいた人々の生活や考え、文化に触れることができます。
古くから残る地名の由来をたどって、ちょっとした歴史の散歩をしてみましょう。

A 狸小路
明治時代、この辺りに白首と呼ばれる娼婦が百人以上もいて、歩いている男たちをタヌキのようにだましていたことから、こう呼ばれるようになった。タヌキがこの辺りに多くいたからという説もありま

B 苗穂
昔は自然のわき水のある湿地帯でした。アイヌ語の「ナイ・ポ」「ナイポ」から付けられた名で、「予である川」「小さな川」という意味です。

C 豊水
札幌の母なる川である豊平川や鴨々川。これらの支流が無数に流れ、水が豊かであったことから、この一帯は豊水と呼ばれています。

▼明治四十年ころのススキノ
（札幌市教育委員会文化資料室所蔵）



D 薄野
開拓使判官の岩村通俊が官設の遊廓を設置するに当たり、区画地の選定を部下であった開拓官員薄井竜之に任じたため、波の名にちなんで「薄井の野原」から名付けられたといわれています。
また、測量を行った藤井という人物が、この地に名を残したと判官に自ら訴えたので、現薄野交番付近（南四西三）に「藤井町」という地名も付けられたようですが、現在は消えてしまいました。
ほかに、辺りがススキの原だったからという説もあります。

E 鴨々川
暮盤の目の京都をモデルにした札幌の街づくりから、京都の鴨川にちなんで（しだれ柳と旧邸の多い河畔が京都の鴨川の風情に似ている）という説のほか、昔からカモがたくさんいたから、アイヌ語でサケを捕る道具「カモカモ」の名からともいわれています。

